

JCHO うつのみや病院
第 10 回地域医療連絡協議会議事録

(日 時) 令和 3 年 12 月 2 日 (木) 15:00～16:00

(場 所) JCHO うつのみや病院 2 階大会議室

(出席者) 18 名

(議 題) 病院概況

皆様からのご意見、ご要望

その他

【概要】

(司会：栗原副施設長の進行)

1. 八木澤院長よりあいさつ

昨年度の地域医療連絡協議会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大で開催を見合わせていましたが、今年度の 10 月に入り沈静化したので、本日、開催させて頂くことになりました。ご多忙の中、委員長の森澤先生、副委員長の和田先生、委員の皆様にご出席頂き、ありがとうございます。また、JCHO うつのみや病院にご支援いただきありがとうございます。

本日は病院の状況を報告させていただきます。委員の皆様からは、外から見た病院への評価・要望などのお話を頂き、今後の病院運営に役立てさせていただきます。

2. 新委員紹介・松田一郎様よりあいさつ

(これ以降設置規定第 7 条により森澤委員長が議長として議事進行を行う)

3. 委員長森澤先生よりあいさつ

4. 議題

●事務局青山：病院概況の説明（別紙スライド資料により説明）

・別紙資料参照

○森澤委員長：地下水活用システムの水道法上の管理はどうなっていますか。

●事務局青山：機械の管理は業者が行っています。毎日の塩素濃度等の水質管理は、当院で行っています。

○森澤委員長：運用は病院で行っていますか。

●事務局古瀬：地下水活用システムの設置業者が運用し、使った量に対して病院が使用料を払っています。

○倉 松 委 員：地域包括ケア病棟について、どのような患者さんがどのような経緯で入院するのですか。

●園田看護部長：院内からの転床が 7～8 割、レスパイトの患者さんも受入予定、地域連携室を通しての紹介患者さんの確保に向けて動いています。直接入院も受け入れています。

●八木澤院長：急性期病棟の入院患者さんも 7 割位が高齢者、その患者さんが社会復帰する

ときに、ワンステップ置いて退院していただく医療体制に持っていきけるよう体制を整えていきます。

- 木平副院長：レスパイトは老健でも受けています。
- 森澤委員長：他院の急性期病棟から、直接地域包括病棟への事例はありますか。
- 園田看護部長：地域連携室で、回復期リハ病棟対象か地域包括ケア病棟対象か判断をしてから入院になります。月1～2件の受け入れを行っています。
- 稲葉委員：災害拠点病院に指定されていますが、災害拠点病院とはどのようなものですか。
- 藤川副院長：3日分の患者さんの食料と飲料水を確保してあります。当院としては、東日本大震災時に他院からの透析患者を何例か受け入れた実績があります。災害時に備え訓練等も実施しています。栃木県と協議し、大震災時に備え広域搬送された患者の治療に自衛隊の基地へ支援に行く準備も行っています。
- 木平副院長：東日本大震災の時は、老健で福島県の方を20数名受け入れています。
- 倉松委員：新型コロナウイルス感染症の受け入れについて、確保病床18床受入可となっていますが、どの程度の重症度の患者さんを受け入れるのですか。受入病棟の感染防御はどのようになっていますか。第6波が来た時の看護師の人数確保はどのように考えていますか。
- 八木澤院長：病院の構造上一部をコロナ病床として使用することが難しく、3階北病棟を地域包括ケア病棟としての使用を止め、コロナ専用病棟としています。本来は49床の病棟ですが、コロナ専用病棟として18床で運営しています。そのため一般診療は病院全体で稼働193床ですが、現在は193－49の144床（急性期、回復期リハビリ）で運営しています。現在、地域包括ケア病棟としての患者さんは受け入れていません。
- 園田看護部長：コロナ病床の18床は、現在の看護師数から検討して届け出たものであります。地域包括ケア病棟は一般病床に比べ看護師の数が少ないので、コロナ患者も中等症の手前位で届け出ています。
- 森澤委員長：病棟の構造に関しましては、自治医大の笹原先生が現調確認しています。私は栃木県新型コロナウイルス感染症対策本部で入院の調整本部の顧問ですので、入院に関しましては、基本中等症までと考えています。栃木県としまして重等症に関しましては、自治医大、獨協、済生会宇都宮の3病院で診るのが基本的な方針になっています。22名までは3病院で対応可能ですが、第6波で患者数が増えてくれば相談させていただきます。
- 松田委員：駐車場がかなり混んで駐車場に入れないと意見が多く出ています。外部に駐車場を用意し、ピストン輸送などを検討して下さい。
- 八木澤院長：駐車場の整備と有料化は、前回の議題にも上がっています。昨年からのコロナ感染の拡大で外来患者が大幅に減ったため、終息後の状況を見極めてから具体的な対応を検討していきます。駐車場舗装の劣化補修も取り組んでいます。

- 稲葉委員：デマンドタクシーを導入している地域があります。病院の通院に便利、高齢者の利用者が多いようです。
- 八木澤院長：事務の方で調べてみます。
- 森澤委員長：その他病院への意見要望はありますか。
- 高塩代理：救急受け入れのご配慮ありがとうございます。今後も宜しくお願いします。
- 松田委員：イベントで看護師の派遣を依頼しています。グランドゴルフ大会での熱中症、スポーツ大会での急変などの対応をして頂いています。今後も宜しくお願いします。
- 木平副院長：地域への貢献として派遣させて頂いています。コロナ禍で会議や研修会等催し物が中止になっているので、少しでも地域に密着できるように情報発信も続けていきます。
- 稲葉委員：地域包括ケアシステムについて、高齢者の見守りや高齢者に対して地域でどのようなことができるか話し合い行っていく会議で、地域包括支援センターが要となり進めています。安心安全キットの配布、防災ラジオの用意、総合相談なども連携して進めています。ご協力をお願いします。
- 木平副院長：前は10月、今回は2月に相談事業として、災害時に地域に高齢者がいるか、どのように救助するか、どんな方が住んでいるか、悪徳商法の対策などについての相談や講義を行っています。
- 横堀委員：病院の南側で透析病床の増設ということで駐車場を囲い掘削工事を行っていますが、工事終了後は駐車場が使用できるようになるのでしょうか。
- 八木澤院長：その予定で工事を進めています。数年来の計画で工事を行い、来年1月末から増床した透析室が稼働予定です。近年高齢者の腎不全が増え入院透析も増えています。周辺にも外来透析の病院は多いですが、入院透析ができる病院は少ないので、今後力を入れていく分野と考えています。
- 森澤委員長：新型コロナウイルス感染症で、透析患者さんと妊婦さんの行先に困っています。現在は透析患者さんを重症対応病院で診ていますが透析病床増床後はどうでしょうか。
- 八木澤院長：3階北コロナ病棟で1部屋対応できるようになっています。
- 大和田副委員長：病院としての採算性はどうですか。今年度前半は黒字となっていますが、コロナ対策の補助金の影響があるのでしょうか。
- 八木澤院長：現時点でコロナ対策の補助金は入っていません。病棟を閉鎖してコロナ対応を行っているので、今後、補助金は入りますが、補助金なしでの運営はかなり厳しいです。コロナ後の長期的な黒字の継続には病床機能を分けた運営が必要と考えています。

以上

令和3年12月総務企画課作成